

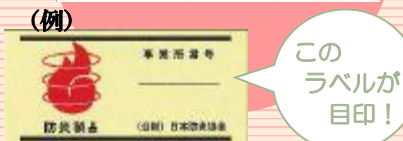
着衣着火防止のポイント

- 調理中は、マフラー・ストールなどは外し、すそや袖が広がっている服を着ている時は、特に炎に接しないように注意しましょう。
- こんろの奥に、物を置かないようにしましょう。
- こんろのまわりは、整理整頓をしましょう。
- 鍋等の底から炎がはみ出さないよう、適切な火力に調整しましょう。
- カセットこんろ等は取り扱い説明書を、よく読んで正しく使いましょう。
- 金属製湯たんぽは、直接火にかけると危険です。



防災品を使いましょう!

火が接しても着火しにくい防災品のエプロン・アームカバーを使い、調理中の着衣着火を予防しましょう。



*一人暮らしのお年寄りへのプレゼントにもおススメです!!

もし着衣に火が着いてしまったら..

脱ぐ、たたく、水をかけるなどして早急に消火し、
119番通報を行いましょう!!

問合せ先 東京消防庁〇〇消防署〇〇課 電話〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇(代表)

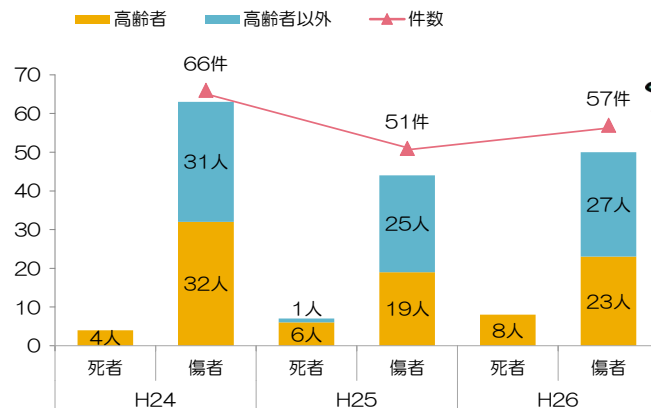
平成27年8月発行

STOP! 着衣着火

東京消防庁

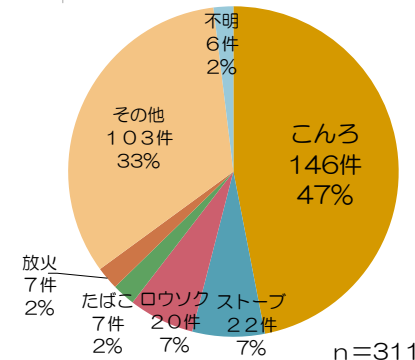
着衣着火による高齢者の死者が多発!

着衣着火とは、調理中にこんろの火が袖口に燃え移るなど、何らかの火が着ている服に着火した火災をいいます。平成26年は、件数については6件増加し、死者は8人発生しており全員が高齢者です。



着衣着火件数・死者数・傷者数 (H24~H26 住宅内 自損は除く)

着衣着火件数のうち、こんろを出火原因とする火災が、5割近くを占めています。

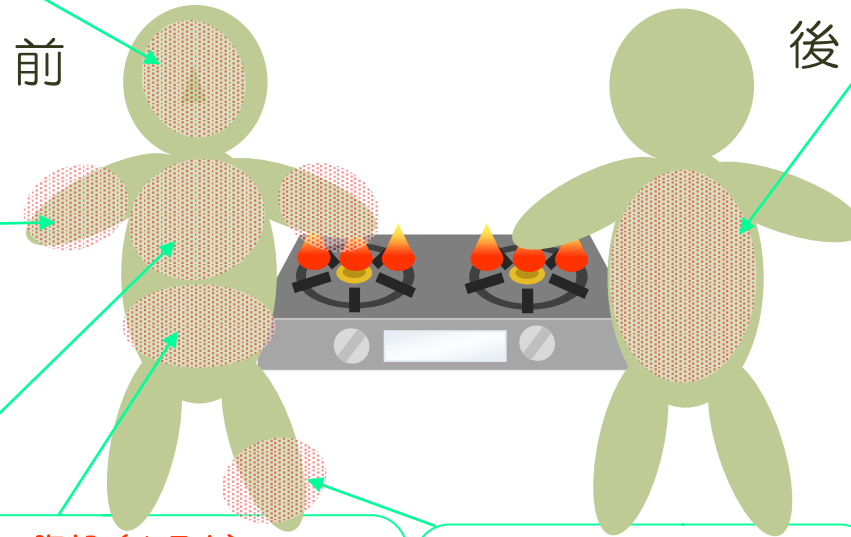


出火原因別着衣着火件数 (平成22年~26年)

→ こんろによる火災の事例は、次ページをご覧ください。

こんろによる着衣着火

過去5年間の住宅火災で、こんろを出火原因とする着衣着火の主な事例をご紹介します。(平成22~26年、全146件、死者11人、傷者161人)



顔 (5人)

女性 50代は、首にスカーフを巻いたままこんろに火をつけたため、垂れ下ったスカーフに着火し受傷。(中等症)

手、前腕部、上腕部 (53人)

- ① 女性 80代は、こんろでやかんに火をかけたまま、こんろの奥の壁タイルを拭いていたところ、シャツの袖に着火し受傷。(軽症)
- ② 男性 70代は、沸騰したお湯に蕎麦を入れた際、蕎麦がこんろの奥に落ちてしまった。拾おうとしたところ、シャツの袖にこんろの火が着火し受傷。(中等症)

胸部 (17人)

女性 30代は、3口こんろの手前側で調理中、奥にある物を取ろうと手を伸ばし、上衣に着火し受傷。(重症)

腹部 (15人)

女性 80代は、換気扇のスイッチを入れようと手を伸ばした際に、こんろで沸かしていたやかんの溢れ火が上衣に着火し受傷。(中等症)

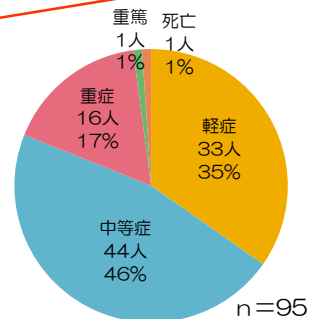
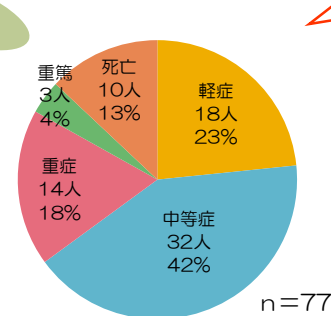
足部 (3人)

女性 90代は、カセットこんろで暖をとっていたところ、着衣が火に触れて着火し受傷。(重篤)

背部 (21人)

男性 90代は、調理中、こんろに背を向け冷蔵庫を見ていたところ、着衣の背部に着火し受傷。(中等症)

高齢者は素早い消火ができず、重症化してしまう場合があります。

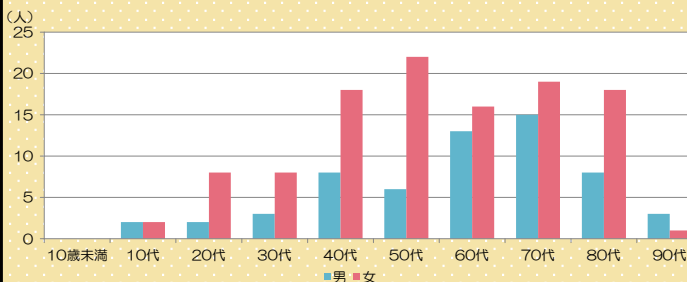


受傷程度別件数 (65歳以上)

受傷程度別件数 (65歳未満)

女性は、男性の約2倍の人数で発生しています。年齢では、70代が最も多く、女性だけでみると50代が最も多いです。

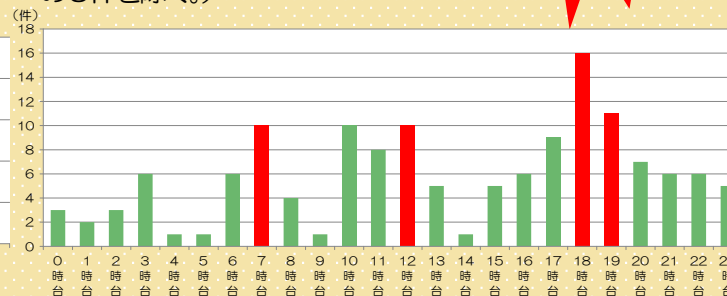
女性に多い



【性別・年齢】

18時台~19時台に最も多く発生しています。また7時台、12時台にも多く発生しており、食事の準備のときに注意が必要です。(出火時間不明の5件を除く。)

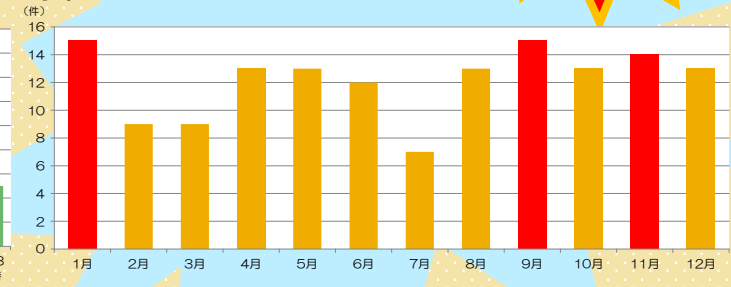
食事の準備



【発生時刻】

1月、9月に最も多く発生しています。厚着をする冬場や、服装の変化する季節の変わり目に多く発生しています。

生活・服装の変化



【発生月】